

日本水産学会で発表しました

9月5日から7日まで宮崎市内で日本水産学会が開催されました。対面での実施は3年ぶりで、当センターからは「モモガニの脱皮に伴う体色変化と脱皮ステージ」と題し、発表しました。

未成熟な雄ズワイガニ(モモガニ)の体色を経時的に測定し、体色変化から脱皮時期の推定を行ったことや、口内組織(第2小顎)をもとに脱皮ステージを観察し、脱皮盛期(9~10月頃)から数か月遅れて脱皮するものや翌年の脱皮盛期まで脱皮しないものの出現割合について発表しました。会場からは、「雄ズワイガニの漁獲物に占めるモモガニの出現頻度はどれくらいか」等の質問とともに、ホルモンが体色変化に関与している可能性等について、有益なコメントを受けました。

本研究の成果はより効果的な資源管理を推進する上で重要となることから、会場からのコメントも参考にしながら、研究のとりまとめを行っていきます。

【背景】ズワイガニ♂の脱皮の過程



○脱皮ステージ (第2小顎)



脱皮が近づくと、新しい殻が形成
→脱皮の進行度がわかる

(山崎・桑原, 1991)



発表スライドの一部